

社会福祉学

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：21世紀の社会福祉は、ノーマライゼーションやソーシャルインクルージョンの理念に基づき、個人の尊厳を踏まえた地域自立生活支援が基調となっている。ここでは、その実現に向けて、今日の社会福祉の基本法である「社会福祉法」の理念を踏まえた政策・実践化が求められている。ついては、今日、福祉サービスを必要とする人々の生活困難を支援する社会福祉法の関係や内容を理解することと併せて今日に至る社会福祉の概念とその歴史の変遷について学習する。さらに、保健・医療・福祉の連携が重視されていることから、社会的な生活困難を抱える人々を総合的に支援する援助技術や社会福祉・社会保障の果たす役割、今後の方向性についても学ぶ。

■**到達目標**：①今日、社会福祉を必要とする背景と具体的諸問題を理解する。
②今後の社会福祉を展望するにあたり、日本や諸外国の社会福祉の歴史や理念を理解する。
③社会的な生活困難を抱える人々の地域自立生活支援を援助する技術や社会福祉法及び社会保障の仕組みを理解することと同時にその実践上の視点や方法を習得する。

■**担当教員**：

大内 高雄

■**授業計画・内容**：

- 第1回 現代の社会福祉の諸問題と社会福祉
- 第2回 社会福祉の基礎概念
- 第3回 現代の福祉問題に対する福祉改革～社会福祉基礎構造改革～
- 第4回 21世紀の福祉の理念と内容・方向～社会福祉法を読み解く～
- 第5回 社会福祉の援助理念・技術及び方法
- 第6回 社会保障の体系と機能および生活保護の原理・原則とその内容
- 第7回 社会福祉の歴史（1）日本における発展過程
- 第8回 社会福祉の歴史（2）諸外国における発展過程～イギリスを中心に～とこれまでの総括

■**教科書**：山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉（第11版）』ミネルヴァ 直近発行最新版

■**参考文献**：社会福祉士養成講座編集委員会編集（2014）『現代社会と福祉 第4版』中央法規

■**成績評価基準と方法**：評価は、開講日ごとの「学生による振り返りコメント」の内容と定期試験の合計で行う。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	○	◎	◎	社会福祉のキーワードの理解(40%) 社会福祉の歴史、理念等の理解(60%)	80%
出席	○	○	○	2/3以上の出席を評価の前提とする。(大学が認める公欠は配慮するので申し出の上、大学の所定の様式を提出のこと) ：開講日ごとの「学生の振り返りコメント」の提出とその内容(1回5点×4回)	20%

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：今日の社会福祉は、社会福祉法や介護保険法などにみる様に、福祉サービスを必要とする利用者の「地域自立生活支援」を概念として展開されています。そのためには、個別支援としてのケアマネジメント、それが可能となるためのソーシャルサポートシステム、不足する社会資源を調達するコミュニティワークの方法論に加え、関連分野（保健・福祉・医療・住宅・生涯学習等）とのチームアプローチが必須となります。看護職の方も、地域ケア推進の担い手として、福祉職との協働が大事になると思われます。8回と短い回数ですが、今後のよき専門職としての働きに向けての土台の一端を学びとっていただければと願っています。高齢者の地域ケアの現場に身をおいてきましたので実践論的にも伝えることができればと思っています。